

一般質問通告書(平成 21 年 9 月定例会)

氏 名・質問事項・答弁先	質 問 要 旨
<p>1 2番 村上 和子</p> <p>1 町の活性化と人口減少を食い止めるために、企業誘致や婚活支援事業の推進を (町 長)</p>	<p>1 企業誘致をして働く場所の確保を。 人口減少にどこの町村も歯止めがかからない状況にあるが、特に上富良野駐屯地は今年の12月に大きな一つの目途として削減問題の方向付けがなされると考えるが、上富良野町の将来を考えると人口が増える要素が見当たらず、今こそ町長のセールス力と役場内に職員の英知を結集した企業誘致班などを設置し、例えば捨てられているアスパラガスの擬葉にルチンなどの栄養分が多く含まれ、粉末に加工すれば食材やサプリメントになるという研究結果が出された。こういった粉末加工場等の企業に働きかけ、働く場所の確保をすれば人口の増加につながり、町の活性化になるのでは。</p> <p>2 婚活支援事業の推進を。 未婚者や晩婚者が増加する中で、役場や社会福祉協議会に結婚相談所を設置したり、男女の出会いの場を町民に提供する婚活支援事業などに自治体として取組んではどうか。</p>
<p>2 要介護認定基準見直し後、軽度の判定をされた人、また障害者認定も軽度の判定をされた人たちの再認定は (町 長)</p>	<p>1 4月に導入された新しい認定基準では、在宅利用者を中心に要介護度が旧基準より軽く認定される傾向があり、10月から認定方法が変更されることになった。上富良野町の受給者は、平成21年7月現在で在宅319名中、要支援1と要支援2は合計で86名おられるが増えている状況にあり、現在は利用者が希望すれば旧基準の認定を継続できる経過措置があるが、これは10月で終了する。希望がなくても5月認定審査後、軽度と判定された人が増加していると考えられるので、10月からの修正認定で介護サービスの利用者の声を反映したものにしようか。</p> <p>2 障害者の認定軽度者に再認定を。 障害者自立支援法が施行され障害者に一割の自己負担を課すかわりに、国と都道府県が財政負担に責任を持つ義務的経費に変更された。介護保険の認定と同じように判定が修正され軽度に判定されないか、また障害者が負担増のためサービス利用を自粛していないか、再度認定の見直しを図ってはどうか。</p>
<p>3 新型インフルエンザが発生した場合の保育所での対応は (町 長)</p>	<p>保育所等ではアンケート調査等により、ここしか預ける所がなく、また預かってくれる人もいないという保護者が多く、何%くらいで休所にするのか、施設では病後保育室も未整理のため、新型インフルエンザにかかったことを想定した庁舎内の共通の情報として、そういった場合の場所(看護宿舎等)など、冷静に判断できる危機管理体制が必要ではないか。通常、かかった園児を別の場所で預かり、休所するのは難しいのではないかと考えるがいかがか。</p>

<p>2 5番 米沢 義英</p> <p>1 新型インフルエンザ予防対策について (町 長)</p>	<p>道内の新型インフルエンザが、「流行期」に入ったとの新聞報道がされているが、上富良野町においてもインフルエンザの感染予防対策を強化しつつあるが、今後の対応について伺いたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 新型インフルエンザ感染予防策についての住民への周知と、発症した場合の対応について。 2 国が示したワクチンの優先接種順位の対象者は何人いるのか。 3 学校、保育所、医療機関などでの新型インフルエンザ対策は。また、保育所で感染が広がった場合の未感染児の保育の確保が必要と考えるが。 4 幼児、児童、生徒に対する新型インフルエンザ予防接種の公的補助の考え方は。
<p>2 細菌性髄膜炎ワクチンの予防対策について (町 長)</p>	<p>細菌性髄膜炎は毎年1,000人もの乳幼児がかかる病気で初期には発熱以外に特別な症状がみられないため診断も難しく、後遺症の残る率は20%といわれている。乳幼児の健康を守る上からも、定期接種による公費助成の対象にすべきと考えるが、今後の対応について伺いたい。</p>
<p>3 高齢者専用住宅の建設について (町 長)</p>	<p>介護保険事業計画・高齢者保険福祉計画では高齢者の人口は、平成26年には3,051人になると推計されている。今後、地域で安心して生活できる環境づくり、地域支援事業の充実はいっそう重要になってきていると考える。一部の自治体では、公営住宅に自立生活支援センターを併設し、24時間の体制で高齢者の機能低下に対する支援を強める動きが出てきている。上富良野町においても今後、公営住宅の建設と合わせた、高齢者住宅の建設を計画すべきと考えるが、今後の対応について伺いたい。</p>
<p>4 中茶屋の運営について (町 長)</p>	<p>地域活性化の事業として、中茶屋の運営は商工会から運営を委託された、NPO法人のタンポポの会が運営を担っている。地域の野菜や工芸品など地域の結びつきを重視した取り組みがなされているが、今後中茶屋の運営をNPO法人に委託するなど、運営のあり方の見直しを試みることも必要と考えるが、対応について伺いたい。</p>
<p>5 マイマイガ対策について (町 長)</p>	<p>近頃では、環境の変化によりマイマイガが異常発生するなど、商店街ではその駆除に大変苦労している。一部の商店街では、自費で電球の取り替えをするなどの対応を実施したところも出てきているが、町としての今後の対応について伺いたい。</p>

<p>3 3番 岩田 浩志 1 入札制度の見直しについて (町 長)</p>	<p>全国的にも公共事業が減少する中で、今回、国の経済危機対策が講じられたものの、わが町においても、今後、公共事業の創設がますます厳しくなることが予想される。そのような状況の中、無理な入札が急増し、建設業界も重大な危機に直面している。このような状況が続けば、工事の手抜き、安全対策の不備や、雇用者に対する労働条件の悪化が懸念される。</p> <p>公共事業の入札については、透明性の確保と公正な市場づくりの観点から、その事業所が町内に本店の登記があるのか、事業実績及びボランティアなどの地域貢献度の評価、町民の雇用者の割合など、点数制度を設定し、総合評価制度の導入を図るべきと考えるが、町長の見解を伺いたい。</p>
<p>2 意見公募（パブリックコメント）の取扱いについて (町 長)</p>	<p>記憶に新しいところでは、日の出臨時駐車場の意見公募（パブリックコメント）があったが、意見公募の取扱いについて伺いたい。町民から寄せられた意見等は、課長会議等で協議された形跡が見られないが、町長、職員間でどのような協議がなされて町広報、ホームページで町の考えを示しているのか、また、町の考えの中で、今後検討するとあるが、いつまでに検討して答えを出すのか、今後の検討過程、結果も報告すべきと考えるが、町長に見解を伺う。</p>
<p>3 上富良野高校第2グラウンドの管理運営について (町 長)</p>	<p>北海道所有の用地と聞いているが、以前は上富良野高校野球部の練習や町の行事で利用していたが、現在の状況は土石が堆積され、雑草が生え藪化している状況にあり、住宅街の中にあって非常に景観、環境的にも悪く、また、事件、事故にもつながりかねない状況にあり、道に適正に整備、管理運営を申し入れる必要があると思われるが、町として道とこれまでどのような協議が行われているのか、また、今後どのように整備され、利活用される予定なのか、町長に所見を伺いたい。</p>
<p>4 10番 和田 昭彦 1 国内外交流推進基金の運用について (町 長)</p>	<p>同基金は平成元年のふるさと創生資金の1億円を原資として積み立てられたということだが、インフラ等には使わず人づくりを目的とした基金として、当時の理事者、議会の決定を高く評価したい。</p> <p>この基金は平成10年に追加して積み立てられた21,800千円とこれまでの利息の合計31,354千円と合わせて153,154千円となり、そのうち現在まで、姉妹都市との交流や児童生徒のカムローズ市や津市の派遣等に67,766千円が運用されてきた。</p> <p>この基金がこれまでのような運用のされ方でいくと最後に使われるのは、20数年後になり、子供たちへの教育に対する投資の効果が現れるのは、さらに10~20年後となることを考えたとき、もっと有効にまちづくりのためにこの基金が運用されて良いのではないか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 これまでカナダへ派遣された児童、生徒のうち、何%が現在地元に残って就業しているか。 2 この基金条例第6条第1項第2号の青少年が国内外を通じて、広く見聞を深め、もって人材育成に寄与すると認められる事業に積極的に運用し、農業や商業の後継者の国内外研修や若い町職員の国内外留学などに運用してはどうか。

<p>2 町による表彰とまちづくりについて (町長)</p>	<p>町では毎年、文化の日に自治の振興発展に尽力された人、行政の各分野において功績をあげた人などの労苦に敬意を表し、表彰をしている。自治功労賞、社会貢献賞、勤続表彰は対象となる方はもれなく表彰されていると思うが、善行表彰は必ずしもそうではないと思う。</p> <p>報酬をいただいてやる仕事は当たり前だと思うが、私たちの見えないところでコツコツと活動をしている人たちこそ、もっと讃えてあげるべきだと思う。町の財政がだんだん厳しくなっていく中で、町民の奉仕に頼らざるを得ないことが増えてくることも考えられる。</p> <p>町がボランティア活動にもっと関心を示し、評価を高めてあげるならば活動の励みにもなり、盛んになっていくと思う。</p>
<p>5 9番 中村 有秀 1 上富良野町郷土館の管理運営について (教育長)</p>	<p>上富良野町郷土館は第6代町長和田松平門氏の特別な郷土愛への思い入れと、子々孫々に郷土上富良野の歴史を伝えようとして、旧上富良野町役場を模して昭和53年5月31日開館された。</p> <p>総事業費90,196千円のうち、町民の篤志寄付は14団体、47個人より30,917,844円の多額な金額が寄せられるとともに、郷土館への資料として様々な生活用具、農耕具等を含めて寄贈物品、貯蔵品預り(寄託)は239名の町民より1,050品目あった。昭和53年5月の開館以来31年が経過し、歴史の館としてその使命と目的を果たしてきている。</p> <p>寄贈物品、貯蔵預り物品、収集物品等の取扱記録と収蔵状況、展示状況について、次の点について伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 寄贈物品、貯蔵預り物品(寄託)、郷土館独自の収集品を開館時と現在までの増加分に分類して、その実数を明らかに。 2 上記の記録はどのように処理しているのか。 3 収蔵室は3カ所あるが、その収蔵状況は(主な収蔵品名) <ul style="list-style-type: none"> 郷土館1階 郷土館地下 郷土館前庭第2展示室 4 収蔵物品等の資料データベース化の考えは(収蔵品の増加と資料の整理促進のため)。 5 来館者数は開拓記念館を含めて年々減少の傾向であるが、平成10年度から平成20年度までの両館の来館者数を年度別に。 6 両館の来館者増のための特別展等を含めて、具体的な対策は。 7 収集物品の新たな収集資料とその対策は。

<p>2 閉校された小学校の歴史を語る 物品等の取扱いについて (教育長)</p>	<p>町内小学校(創成、江花、里仁、日新、清富)が統合、閉校が行われたが、それぞれの学校は地域との深い絆で結ばれ歩んできているが、各学校の歴史を語る下記の物品等はどうのような手続きで取扱いされて、現在はどのようになっているのか、各学校ごとにその状況を伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 校旗 2 校章 3 校門
<p>6 7番 一色 美秀 1 共生型基盤整備事業の取扱いについて (町長)</p>	<p>町の市街地に多機能共生型施設の整備を行い、「高齢者の生きがいづくりと介護予防」、「障害者の地域生活移行と地域生活援助」、「子どもの居場所づくりや世代間交流」などを目標とした、高齢者、障害者、児童がともに支えあい、交流する各種事業の活動拠点づくりを行う「共生型」事業の展開方法として、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 既存の介護保険関係施設などの活用 2 新たに受け皿施設を整備する国庫補助事業の活用 <p>補助メニューとしては、「地域介護、福祉空間整備等交付金」(先進的事業支援特別交付金 国 10/10 補助 30,000 千円)が考えられる。</p> <p>上記の事業について、町として計画を立て、本格的に取り組んでいただきたいと思うが、町長の考えを伺いたい。</p>